

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	金沢大学	整理番号	L01
プログラム名称	文化資源マネージャー養成プログラム		
プログラム責任者	中村 慎一	プログラム コーディネーター	鏡味 治也
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 本プログラムは、学生募集定員（8名）の充足、優秀な学生の確保といった、中間評価時の留意事項への対応がなされるなど、計画を着実に実施しており、文化資源分野のグローバル人材養成を確実にしている。 北陸の地場産業を支える文化資源分野の企業との連携プロジェクトを推進して大学院教育の充実を図るとともに、国内外での実地研修（特に輪島や金沢等での研修事業）を実施して文化資源マネジメント能力の涵養を図り、併せて国際ワークショップを開催（平成28年度はバンドン工科大学で開催予定）してグローバルに活躍できる人材の育成を図っている点は高く評価できる。 6名の特任教員（特任教授1名、特任准教授2名、特任助教3名）を国際文化資源学研究センターに配置しており、この研究センターが本プログラムの効率的運営のためのヘッドクォーター的役割を担っている。 金沢大学と北陸先端科学技術大学院大学との協働によって平成30年度に「先進融合学術共同大学院」の設置が予定されており、本プログラムをその共同大学院の未来社会創造分野国際文化遺産領域として位置付けられることが検討されている。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度に8名の学生が入学しており、募集定員（8名）を充足された点は評価できるが、応募学生数も8名で全員が合格している。今後、学内外における広報をより周到に行い、更に数多くの学生が応募できるように尽力すべきである。 これまで東アジア協定校（北京大学、チェンマイ大学、バンドン工科大学、ベトナム国家大学ハノイ校）から4名の留学生を受け入れてきたが、平成28年度にはジョージア（旧グルジア）からの国費留学生1名が本プログラムに参加している。今後、更に留学生の多様化を積極的に図ることが望ましい。 本プログラムでは Cultural Resource Management を実践できるグローバルリーダーの養成が目指されており、文化資源の「多文化共用」を可能ならしめる Management 能力に対する教育システムの更なる充実を図ることが不可欠である。そのため、経営学を専門とする教員の配置を積極的に検討すべきである。 平成29年度末に最初のプログラム修了者が出るため、グローバルリーダーに相応しい資質能力を保証する学位審査体制の構築に向けて一層の努力が求められる。 学生アンケート調査結果の「修了後の希望進路（複数回答）」において、大学だけではなく民間企業、官公庁、公的研究機関、国際機関、NPO・NGO、起業にもほぼ同数の希望者がおり、多様なキャリアパスが想定されている。そのため、学生達が早い段階から多様なキャリアパスへの具体的認識を深めることができるよう、キャリア支援体制の充実化を図ることが必要である。 学生アンケート調査結果において、インターンシップの充実化が図られていないという指摘がなされており、特段の配慮が必要である。 			